



ぴっぴのだより

NO.13 2016. 3. 18

森の木の子よく見ると かたい殻にかこまれた

小さな木の芽が見つかった 寒い 寒い 冬でも

負けるな 負けるな と、 守って下する 大地よ。

これは冬の間 子ども達が何回も歌っている「まもり」という歌です。春夏秋冬と一年がめぐり 私たちの前には 様々な経験を通して たくさん増えていた子ども達の笑顔があります。この一年も子ども達が元気に過ごすことができて、ありがとうございます。子どもが押し寄せではなく自分の意志でただひたすら遊ぶ。私たち大人はそれをしっかり支える。この私たちの「当たり前」を今年もスタッフのチームワークでやってこれたこと、一緒に気持ちいい汗をかいてきたことに ありがとうございます。子ども達とスタッフの信頼関係を 母さん達が支えて下され。その背後で私たちスタッフがしっかり支えて下している。有り難いことです。心から ありがとうございます。

体ごと遊ぶ体験を通して、困難にぶつかっても話し合うことを通して、生きる力を育むような絵本を通して、一人ひとりの子どもが自分自身に与えられた現実の中でフルに自分を発揮していきけるような安心感が育ちてきたらどうかと 考えていた時に思い出した人がいました。児童文学の評論家で「ゲド戦記」などの翻訳で知られる清水真砂子さんです。34年間 勤めた大学を去る最終講義で「優れた子どもの文学は、こんな世界で元々いたよ。大きくなるって楽しいことだよ。若くとも生きてごらん。大丈夫」と背中を押してくれる。皆さんもそんな一人に」と語りかけました。聞いていたのは、在校生、卒業生の方が多く、ほとんどが保育に関わる仕事についている方たちだと思ってしまうくらいです。それからしばらく「生きてごらん 大丈夫」という言葉をずっと考えていました。

そんな中で 身近にいた大切な若者が自ら 命を絶ってしまうという悲しい知らせが入ってきました。それから三週間 私は考えこんで この原稿もストップしてしまいました。否応なしに襲ってくる時代の中で 一人一人の いのちが 本当に大切にされる社会が実現してほしい。と祈らざるをえません。大人にはおれ しっかりと着ることを覚えるけれど子どもはよいと持った素肌をヒリヒリさせています。はぐらかす術も持っていない。保育の

仕事を通して 清水真砂子さんが語られたように この人に出会えたから 自暴自棄にならねえんだと思わせる一人に 子どもたちを この世につなぎとめる一人にならなければならぬと思っています。人のいのちを大切に思う心を 育てる仕事の責任を痛感しています。

理央ちゃん 俊林くん 墨くん 行人くん 朝太郎くん 悠太くん 明日香ちゃん 陽菜ちゃん 巴美ちゃん 真央ちゃん は ずいぶん大きな世界へ 踏み出しています。理解してくださる人は たくさんいるように 思っています。茂木律ちゃん。どこにいても まっぴぐりさん みんなと一緒に育っているね。遊びに来る日を 待っていますね。

：真弓

入園の集いのご案内

新しくぴっぴの仲間になった皆さんと共に 親子一緒に楽しい時を作りたいと思います。

日時 4月8日(金) 登園 9時～9時15分
降園 12時半頃

場所 ぴっぴの森

持ちもの いつもの着かえなど。 雨具 帽子。 温かいお茶 軍手
親子分の お皿・お椀・お箸やおクスターン

※入園の集いに 小学生が参加される場合 ランクの準備がありますので予め、お知らせ下さい。なお 300円が必要になりますので よろしくお願ひいたします。

ありがとうございます

ぴっぴ お母さんの会の皆さん。タープと 3万円を頂戴 いただきました。タープは、ますます使わせていただいております。大切に 使わせていただきます。感謝を込めて。

一つ大きくなる喜びと共に登園してくる 子ども達に 会えるのを 楽しみにしています。よい春休みを お過ごし下さいね。

12月後半~3月のエピソード

・敬称略

・おおよそ日にち順

② スタッフ

⑤ どんぶり

⑧ まつぼっくり

④ くり

⑥ おおくり

- ・ ⑤ 帰りの絵本「サンタクロースにもらったよ」を読んだあと、②がサンタのふうの袋からプレゼントを取り出して一人ひとりに渡していく。目には見えないものを受け取るのが上手な⑤は、⑥はもらってすぐに食べ始める。②「何ももらったの？」⑥「サンタさんからもらった！」⑤に渡して②「何かがある？」⑥「恵理さん！」すかさず⑥「いいよ〜ほろきもえいさんほろ〜い!!」サンタさんのプレゼントに恵理さん! すてきです。
- ・ 朝 ⑧が⑧のバッグを数えている。⑧「1, 2, 3, ... 9, 1個足りない!」ちゃんと人数も把握している様子。そこへ⑧の母 恵理さんがやっていらっしゃるのを見て⑧「おはこんばんわ!」
- ・ ⑧のお誕生日 お祝いの日。本当ならトーチは⑥が⑥の名前が呼ばれた。⑥「え〜何ぞ? おおくりさんじゃないの?」でも⑥のみんなはすぐに「あーそうか!」⑥はおおくりにならないもんね。今日で最後だもんね」と納得。②は何も言いませんでしたが 気にかけて⑥に 嬉しい気持ちに「おめでとう」。
- ・ お散歩に出発してまもなく⑥「うんち おれり〜」トイレにもどり、うーん うーんとうなるものの出ない。みんなはいる場所を聞くと、浅間絶景をそろそろ出発するところ。逆のルートから行くとすると⑥「あちから行ったら⑥はあちから行きたい」しかも子ども達の声がそちらの方から降ってくるように聞こえる。⑥「あ! あーちゃんの声がいちからやっほ! あちからいるよ。あちから行こうよ」⑥だけれど、自分達の主張がちゃんとあり。②「ふーし、追いつかないかも

- ・ しれいはいけいど 追いかけてみよう!」と⑥②2人はおたひ速足で歩きまわった。おんと浅間絶景から少し下った所で みんなに追いつき⑥「ほろき がんばって歩いて 疲れたけど良かった!」出迎えてくれた⑥④に「よく追いついたね」と抱きかかえられて笑顔の⑥でした。
- ・ ⑥がラン4後 落ち葉を大シャベルで 黙々と集めている所へ。大シャベルを手に⑥がやってきた。⑥「そらくん、これがシャベルカーで そらくんのバグリーザーだね」と⑥が集めた落ち葉を⑥の荷へ積み込む。⑥がそれを集めている囲いの中へ... 2人ごくり返し進んでいる。
- ・ 年明け 初登園の⑥。よく遊び、よく食べる ⑥と2人で「冒険に行ってくるんだ!」と 森の奥へ入って行きまわった。(1/19)
- ・ ⑥⑧がそり滑りのジャンプ台を作っていると⑥⑧「なーれーて」。⑥が使って紫のスcoopを⑥「使いたいのに貸してあげない」とおねだりしていると⑥「もう一回 カーレてって 言えばいいんだよ」⑥「もう何回も言ったもん...」⑥が⑥に「カーレて」。⑥「果ちゃんか先にカーレてって言ったから次の次が空太くんね」⑥が⑥に「疲る」と⑥「あら 優しい」⑥「かのかちゃん、ねんかしてあげたね!」
- ・ 朝の集まり後、⑥⑧が森の奥へ。途中 ②の足跡を見つけて⑥「雪男かも!」⑥「剣やスcoop あるから大丈夫だ!」⑥「あー 行こうか!」2人ご勇ましく雪深い森を歩いて行きまわった。
- ・ 雪や氷の塊を「大きいカズ!」「マグロだず!」とタープ下で魚屋さんが始めている。⑥「今日もほろか 焼いてあげよう!」と宣言してから、堂々と⑥と進んでいる。⑥「イカとマグロを焼いているから 買いに来て!」⑥「ほろかのは 7コだから焼かない! 7コはお刺身がおいしいから!」としっかり大声で こだわりを力説。「ほろめは 焼いて食べるの!」と譲らない⑥でしたが⑥の声高な主張に⑥「うるさい!」⑥が「7コは焼いてもおいしいよ! 火に焼きたか!」と名解説。その場を丸くおさめていった。
- ・ ゆるい坂で そりをスノボのように 立ち降りていた ⑥⑧。⑥と⑧が「入れて〜」と加わって しばらくして ⑧の泣き声。⑧「後林さんたちが『あーちゃん スノボ 禁止!』って言った。どうやらゆっくり滑っていた⑧に「どけ どけ! もう禁止」と言たらしい。しゃべりあげる⑧に⑥「後林さんに言いに行く。もう言わないで!」何やら⑥に言われ 困っている⑧。⑧「⑧もずっと泣くばかり... がんばれ〜 おおくり!!」

- ・ おおくり 冬の終わりのふりかえりからの一言。
 ④「みんなと泊りがけで楽しかった。全部楽しかった。」
 陽「みんなとちょっと泊りがけだったけど…。10人の思い出をちょっと作れたかった。」
 修「本当はなあ～もっと作りたいなあ～」
 理「明」と寝たさ。シャワーで遊んださ。陽とわかれで遊んださ。お茶を淹れたさ。全部おれろくて楽しかったさ。話が止まりません。
 明「おれろっこ…超～楽しかった。」と笑いが止まらない。
 修「もっと泊りがけだった。月・火・水・木・金・土・日と一回帰って又遊びに来たい。」
 俊「う」が楽しかった。ゲームが楽しかった。」
 墨「ゼーンバ 楽しくて。朝 そのまゝ ぴぴに帰るのよかったです。ちよとだけぴひもよかったです。」
 組「たしかに今日の遊びは 短く感じられたね!」
 行「わいと人間ごっこ…くじらごっこ…超楽しかった。」大人がいた遊びはどれもだやで遊んだ話をしてくれました。
 組「もっと泊りがけだったなあ～」②「どの位?」じっくり考えてから組「5回ほど泊りがけだった。」
 笑「もっと泊りがけだった。700回位!!」
 組「700回 泊ったら お母さんのはと 忘れちゃうかな…?」
- ・ 4歳の誕生日を迎えたたん。とにかく何かお手紙を書いて⑤。お友だちとの遊びからお別れ⑥「何かお手紙は?」海賊船の所から板を運んでいると⑦が薪棚の薪をくずして遊んでいたのを見て⑥「笑がたお別れあげる!」と一人ぞ薪を積み始めました。⑧⑨がそれに加わり⑩「おくん。はい!!」と毎回名前を呼び。⑨に手渡す⑧。⑥は大きな薪を持ったり3本位を同時に持ったりと張りきっています。
- ・ 昨日 体調不良でお休みした⑪。今朝は、ご機嫌よく歩いて登園の⑫。焚き火のところで おれちかう二人。⑬「⑪。よくなった?」⑪「うん。もう大丈夫。さげすみ二人のやりとり 2歳児が このやりとりって 何だか すごいなあ。

- ・えんに体操の準備をする東理工の女子伝えている羽根(羽根) 4人で一緒にフラー
プを赤いボートの所まで運んでいれた。ちやどおへしうらくお休みにいた(羽)の車が到着。
(羽)「(羽)くん来たか〜」4人が駆け出し。(羽)の所へ。ちやどおと気持ちが乗らない(羽)を待
ち、一緒に朝の集刊の所まで連れて来た。
- ・松のえんに体操の準備を脱ぎ、入室を経て座っている時。何かの拍子に(羽)の鼻に前いた(羽)の
手があったように思う。(羽)は怒り。(羽)の鼻を指先でほじく。あんな手をなだすも。
涙に落ちる(羽)。状況を2人に確認していると(羽)「おしこしたか」迷っていたがこれ以上、とや
かく言う必要もなかった。(羽)をたれに行かせ。(羽)は「アハハハハハハ」と声を出
す。(この時、みんなはもう体操を始めていた) (羽)「(羽)を待ってる」(羽)「もう始まっている
から行こうよ」(羽)「うん。(羽)と一緒に行く」。(羽)がもどいてくると2人が揃って「おはよう
ございませう」と言て、さっさと入浴して体操を始めた。
- ・碧が道路に出て、とんとん歩いて行くのを見て。(羽)くん「危ないわ〜」と(羽)悦(羽)基そ
して(羽)そして(羽)おどろかせ始めた。(羽)「追いかけるのも遠くへ行ってしまおうかと思
いながら、おどろくのを待ってあげようか」みんな一つと揃って来て。(羽)が赤いボートの裏に
隠れる。(羽)達もおどろく表情で隠れた。(羽)「ラララララララララ」と。今
やふるオレ達のりすの歌を歌い出すと。(羽)「(羽)達も11時には。(羽)をアハハハとおどかせ
ちゃったか!」(羽)はまたおどろく顔。3人遠くから。(羽)がもどいて来る様子を見て一
番は(羽)「あー! いや!」と指さし。(羽)とちやどおたてた(羽)をみんなが「おどかし、大騒ぎした」。
- ・崖で(羽)悦(羽)基が遊んでいると(羽)がやって来て、棒を鉄砲に見立てて「パン」と(羽)達にあてて
いる。さうして(羽)「スピードガン ポケッ」と棒を押し(羽)がすごいスピードで走り、大笑い。(羽)も
崖の下をすごいスピードで走るので「転ぶ! 転ぶ!」(羽)は長靴が脱げ、すごい格好になっているのを
大笑い。(羽)「一番速かったのはおどろき!」と緑のレインコートを着ている(羽)を指した。(羽)が笑
いながら「おどろきくん!」と伝えると、(羽)もにんり。(羽)も加わって、(羽)「スピードガン! みんなは
自分達の頭をポケッとしてスピードアップ」(羽)「ゆくりモトもやて〜」
- ・朝(陽)行がかまくら作りをしていると、マイシャベルを操っていた(羽)「いんけん 自動運転のシャベル
カーで掘ってあげる!」と雪を運んでかまくら横へ。すると朝「あー! 助かる!」陽「琳ちゃん
おれ事やおれ事いさせて下さいね」(羽)「琳ちゃん、助かるわー!」(羽)の嬉しう顔ったら! 汗かいて
何度も雪を運んでいた。(羽)達のこどろろという時の気の効いた優しい声かけがすごいと思いつく。

ぴっぴの森の木の子たち ～ 3月 アブラチャン 油漚青 ～

3月に入り、あたたかい日も多くなって、森の木の子たちがふくふくと大きくなってきまして、お誕生日のお祝いの食事を子どもたちと探していると、もう少しで開きそうなまん丸つぼみのアブラチャンを発見！「あ、ちょっと黄色くなってるよ。」「つぶつぶだね。これ全部お花になるの？」と嬉しそうに子どもたち。

ぴっぴの森で、最初に春を告げてくれるのはアブラチャンの黄色の花ではないでしょうか。小さいけれどガラス細工のようにかわいらしい花が無数に開き、まるで空気が黄色く染まったかのように森を春色に変えてくれます。

やがて美しいつややかな緑の葉が芽吹き、秋にはかわいらしいまん丸の笑がっきます。

“アブラチャン”という印象的な名前には漢字で書くと油漚青とよみます。“漚青”とはコーラルレッドなどという意味があり、“油”と合わせて、実や木全体に油を多く含んでいることからついた名前だということです。

れい実は夏の終わりと夏青くなっているのですが、それを割ると、とても清々しい香りがします。木、葉も薫るのですが、これはクスノキ科に共通の香りで虫よけにも利用されています。同じクスノキ科のクロモジという木の枝は和菓子のつまようじに使用されています。

軽井沢の森の中で、春に黄色の光を運んでくれるアブラチャン
今年も木たちに春を届けてくれるのは、もうすぐですね！

：菜々恵

